

■EU：欧州委員会はCO₂排出割当の削減案を検討

欧州委員会は2012年7月25日、欧州排出量取引制度（EU-ETS）におけるCO₂排出割当について、割当枠の削減案を提案すると発表した。フランス経済紙の報道によると、現在のCO₂排出量の取引価格は7ユーロ（約660円）／CO₂トン程度まで下がっており、欧州委員会は取引価格を12ユーロ（約1,130円）／CO₂トンまで引き上げることを目標に割当枠の削減案を作成するとしている。また、産業界や石炭火力への依存が多い諸国の反発に配慮して、2020年までの期間の総割当枠については変更せず、第3フェーズが開始される2013年から毎年の割当量を削減し、この削減分を最後の数年間で上乗せして付与し、全体として割当枠を維持する案を提示する予定。これは現在、欧州域内における景気低迷によって落ち込んでいる排出枠の需要が、2020年頃にかけては景気回復によって需要増に転じることを見越した措置となっている。欧州委員会は2013年に6～12億トンの削減を検討しており、2012年内に加盟国との間で合意に達することを望んでいると同紙では報じられている。